

令和5年度 授業創造プラン

3年

教科	児童の実態（Gテストを含む）	具体的な取組【評価の観点】
国語科	- 漢字を読むことについてはおおむねできているが、書くことについては個人差が見られる。（Gテスト平均得点率：読み 92%・書き 79%） - 文章の読み取りについては、意欲的に文章を読む児童が多い。内容理解については、物語文、説明文ともに文章間の相互関係を理解することを苦手としている。（Gテスト平均得点率：物語文の読み取り 59%・説明文の読み取り 55%） - 表現については、自分の考えをもつことはできるが、それを言葉や文章で適切に表現することが苦手である。Gテストの表現の設問ではそれまでの設問の回答に時間がかかり、表現の設問を回答できなかった児童が多かった。（Gテスト平均正答率 30%）	- 漢字を一文字として覚えるだけでなく、言葉として覚えることができるように語彙を増やす活動を設定する。 - 物語文、説明文ともに、文章の構成について広く捉え、発問の意図を読み取ることができるようにする。また、国語辞典を活用しながら語彙を増やし、内容の理解が深まるようにする。 「ローマ字」の単元で学習した内容を基に、クロームブックを活用して文章を書く機会を設けたり、家庭学習等で短文を書く機会を増やしたりして、作文に対する苦手意識を軽減できるようにする。
算数科	- たし算やひき算の筆算についてはおおむねできているが、ひき算の筆算では繰り下がり間違いがいくつか見られる。かけ算の九九はおおむね定着している（Gテスト平均得点率：たし算とひき算の筆算 87%・かけ算 94%） - 数直線の読み取りやテープ図の選択については理解が不十分であった。（Gテスト平均得点率：数直線の読み取り 59%・テープ図の選択 55%） - 時計の読み取りやかさの読み、単位換算では定着度に個人差が見られる。（Gテスト平均得点率：時計の読み取り 75%・かさの読み、単位換算 80%）	「大きな数のしくみ」や「小数」の単元で、位の移り方を確かめるとともに、繰り下がりのあるひき算をこまめに練習して計算への苦手意識を軽減していく。 「大きな数のしくみ」の単元で、一目盛あたりの数を意識して読ませるとともに、書くことを通して数直線やテープ図の活用慣れを促すことを目指していく。 「重さのたんいとはかり方」の単元で、具体物を捜査して体感する機会を多く設定するとともに、日常的に時間の感覚やかさの読み方、単位換算に触れる機会を設ける。